編集方針

「陸の水」論文集は，日本陸水学会の機関誌「陸水学雑誌」「*Limnology*」とは学術的な位置付けが異なる。すなわち，研究の新規性（Something New）を厳しく問うものではない。あくまで，東海（中部）地域の陸水学研究および陸水情報の記載を中心に，興味深い観測・測定技術の手順，発想，意見を掲載していく。したがって，論理の組み立て方（考察），研究方法，値の妥当性，に大きな欠陥が無ければ受理する方向で査読をすすめる。

投稿規定

1. 投稿者：単著論文の著者は，日本陸水学会東海支部会員に限る。共著論文の場合，支部会員が1名以上含まれていれば，筆頭著者が支部会員である必要はない。尚，筆頭者としては1本，共著者としては2本までの投稿に限る。具体的には最大2論文まで，著者として名を連ねることが出来る。資料については，投稿数は制限しない。

2. 報文の種類と扱う内容：報文の区分は，「論文」，「報告」，「意見」とする。論文（Article）は，特に種類（原著，短報，総説）を設けない。論文の内容は東海4県（愛知，岐阜，三重，静岡）とその周辺地域で得られた野外の陸水学資料を扱ったもの，および新しい解析・分析手法の提案とする。報告（Report）は，東海4県（愛知，岐阜，三重，静岡）とその周辺地域で得られた水質等の観測データ，水棲生物の分布記録，古資料，治水・利水遺跡の紹介等，陸水域に係るあらゆる情報を受け付ける。但し，データや写真に簡単な説明文を付けるなどし，独立した著作物とすること。意見（Opinion）は，陸水学全般に関わる意見交換の場として設定する。

3. 言語：日本語と英語とする。ただし，英語の場合は自費で十分な英文校閲を受けてから投稿し（投稿時には校閲結果をコピーして添付する），受理後も英文校閲を自費で受けること。

4. ページ数：論文は，原則として1論文刷り上り最大8ページとする。8ページを超過する場合は，その実費は著者が負担する（およそ1ページあたり10,000円）。なお，1ページに掲載できる文字数は最大2000字（全角文字）である。依頼論文は超過負担を求めないが，著者は制限ページに収まるように努力すること。報告と意見は刷り上り4ページ以内とし，超過ページの負担は論文のそれに準じる。ただし，編集委員会が必要と認めた場合は最大8ページまで無料で印刷する。

5. カラー印刷：カラー印刷を希望する場合はその実費を著者が負担する。

6. 原稿の投稿

1）紙媒体の場合：原稿2部を簡易書留・配達記録・レターパック・ゆうパック・宅配便で編集責任者に送付する。原稿の電子媒体を FD，CD-R，DVD-R に記録し（PDF 変換の必要はない）同封すること。

2）電子媒体の場合：添付ファイル（PDF ファイルが望ましいが，Word ファイルでも受けつける）として編集委員長に電子メールで送付する。

〒464-8662 愛知県名古屋市千種区星が丘元町17-3
椙山女学園大学教育学部 野崎健太郎
電話052-781-4458；電子メール ken@sugiyama-u.ac.jp

7. 原稿の校閲：論文は，担当編集委員及び担当編集委員が指名した査読者の2名で審査を行う。さらに，必要があれば外部の専門家に審査を依頼する。担当編集委員名は公開とする。担当編集委員及び査読者の審査が不公正であると判断した著者は，担当編集委員及び査読者の交代を編集委員会に申し入れることができる。審査の交代が妥当であるかどうかは編集委員会が判断する。報告，意見については，担当編集委員または担当編集委員が指名した査読者の1名で審査を行う。

8. 校正：掲載が決定した原稿は，著者と編集委員会が初校の校正を行う。二校以降は編集委員会が校正を行う。

9. 掲載料：投稿した原稿が受理された場合，著者には掲載料を請求する。この掲載料は論文集発行費用の一部に還元される。著者には完成原稿の PDF ファイルを進呈する。

10. 別刷り：別刷り代金は，全て著者が負担する。初校時に別刷り注文票を送付するので，それに必要部数，送付先，支払い方法を記入して編集委員会に返送すること。

11. 原稿の著作権：掲載された原稿の著作権は，日本陸水学会東海支部会に属する。ただし著者が，自身の原稿に限り，配布および web site で公開することを認める。

12. 公開：掲載が決まった原稿は，速やかに日本陸水学会東海支部会の web site で公開される。

13. 附則

本規定は，2012年4月1日より施行する。
本規定の改正は，2013年2月9日より施行する。

本規定の改正は，2015年2月21日より施行する。
本規定の改正は，2021年2月13日より施行する。

執筆要領

1. 原稿

（a）日本語原稿：A4版の用紙におよそ横40字，縦30行（1200字／頁）で執筆する。固有名詞を除いては常用漢字を用いて楷書体で読みやすく書き，数字は原則としてアラビア数字を用いること。

（b）英語原稿：A4版の用紙に，横40字，縦30行（1200字／頁）で執筆する。十分な英文添削を経て提出すること。投稿時には英文校閲の結果を添付する。

2. 記載の順序

（a）日本語原稿

1）日本語表題
2）日本語著者名
3）日本語住所
4）英語表題
5）英語著者名
6）日本語摘要（およそ1/3印刷ページ，字数で500字程度）
7）日本語キーワード：3〜5語
8）本文（はじめにー方法ー結果ー考察）
9）謝辞
10）引用文献

* 和文論文には，英文摘要・キーワードをつけることが望ましい。

（b）英語原稿

1）英語表題
2）英語著者名
3）英語住所
4）英語摘要（Abstract 300語程度）
5）英語キーワード（Key words）：3〜5 words
6）本文（Introduction-Methods-Results-Discussion）
7）謝辞（Acknowledgements）
8）引用文献（References）
9）日本語表題
10）日本語著者名
11）日本語住所
12）日本語摘要（およそ1/3印刷ページ，字数で500字程度）
13）日本語キーワード：3〜5語

原稿には表題ページから通し番号のページを中央下に記入すること。

3. 活字指定：和文原稿での動植物種名はカタカナを使い，学名（属名および種小名）はイタリック指定にする。なお，句読点は（。）および（，）とする。

4. 引用文献：引用文献は本文中に引用されたものすべてを記載しなければならない。雑誌名は原則として省略しないで表記すること。

（a）論文

田中阿歌麿・星野隆一（1933）択捉島湖沼踏査概況及其の湖沼形態，水の理化学的所見．陸水学雑誌，3 : 1-19．

Birge, E. A. and C. Juday（1934）Particulate and dissolved organic matter in inland lakes. *Ecological Monograph*, **4** : 440-474.

（b）単行本の全部

吉村信吉（1937）湖沼学．三省堂，東京．

Ruttner, G. E.（1957）Fundamentals of Limnology（Translated by D. G. Frey and F. E. J. Fry）. Toronto University Press，Toronto.

（c）単行本の章または分冊

宮地伝三郎（1935）信州の魚類．上高地及び梓川水系の水棲動物，上野益三（編著）：180-240．岩波書店，東京．

Syrett, P. J.（1962）Nitrogen assimilation. ln Physiology and Biochemistry of Algae, R. A. Lewin（ed.）: 171-188. Academic Press, New York.

5. 図，表，写真

（a）図，表，写真とその説明文は日本語原稿の場合，日本語で書く。希望があれば英文併記を認める。本文中の引用は図1，図2〜4，表1（英語の場合は Figure 1，Figures 2-4, Table 1）とする。

（b）図と表はそのまま印刷できるもののみ受け付ける。縮小印刷されることに配慮して，背景，シンボル，文字サイズなどを適切に使用すること。

（c）写真はフィルムの場合，光沢平滑印画紙に鮮明に焼き付け，白地の厚手台紙（原則として A4サイズ）に貼り付けること。デジタル写真の場合は，MS-word，Power Point 等のソフトウェアに貼り付けること。

（d）図，表，写真の挿入箇所は，本文中に置きたいおよその位置の原稿右欄外に，図1（Figure 1）や表1（Table 1）のように朱記しておくこと。

（e）地図は方位と縮尺が判るようにすること。

6. 単位など

（a）時間，濃度，速度などを表す場合には基本的に SI 単位を用い，本文，図表ともに s, min, h, d, mo, y, μg L^{-1}, mgO_2 L^{-1}, m s^{-1}, gC m^{-2} d^{-1}のような表現を用いること。

（b）数字や欧文表記は，半角文字を使用すること。

（c）日付の表示は西暦を用いること